

# 完了後の評価個表

整理番号	森3-10
------	-------

事業名	林道舗装事業	都道府県	千葉県
地区名	内浦山線	事業実施主体	千葉県
関係市町村	鴨川市	管理主体	千葉県
事業実施期間	H10～H11（2年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 本路線の概要 内浦山線は、県立内浦山県民の森の区域内にあり、鴨川市内浦地区の林道奥谷線から勝浦市上植野地区の保安林管理道を連絡する線形として、昭和47年度から48年度にかけて開設した延長1,509m、車道幅員3.0mの林道であり、利用区域内森林面積59haの22%を占めるスギ林を主体とした人工林の間伐等の森林施業や内浦山県民の森のアクセス道路として利用されている。</p> <p>② 本林道を整備する目的・意義 本林道は、砂利道のうえ急勾配区間が多く、車両の通行による轍の発達と雨水の流下相まって深い凹凸が形成され、この補修に毎年多額の経費を要してきた。また、内浦山県民の森のアクセス道路として利用されており、より安全で円滑な通行を確保する必要があった。このため、急勾配区間及び急カーブ区間についてアスファルト舗装を実施し、安全で円滑な林道通行の確保を図ったものである。</p> <p>(事業内容) 施工延長 1,231m、車道幅員 3.0m、利用区域内森林面積 59ha</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 47,089千円 (総便益の内訳) : 一般交通便益15,469円、災害等軽減便益12,316千円 維持管理費縮減便益19,304千円</p> <p>総費用 (C) 44,634千円 分析結果 1.06</p>
② 事業効果の発現状況	<p>① 雨水等による路面浸食がなくなり、路面整備にかかる費用は整備前が年162万円必要であったのに対し、整備後は不必要となった。</p> <p>② 路面が平滑になり、間伐材等の林産物や森林施業用機材の輸送が効率的となった。</p> <p>③ 路面が平滑となり、走行性が向上したことにより、内浦山県民の森の利用者による利用が増加している。</p>
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、千葉県が定めた林道管理規程に基づき管理されている。年数回の現地パトロールが行なわれており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
④ 事業実施による環境の変化	<p>雨水等による路面の浸食が防止されたことから、砂利等が側溝へ流れなくなり、側溝の詰まりが無くなるとともに、林道沿線の林地への砂利等の流入が無くなり自然環境の保全が図られている。</p>
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>走行性が向上し、林業労働力の効率的な移動が容易になった。</p> <p>また、内浦山県民の森のアクセス道路としての利用者が増加傾向にあり、森林や林道に対する理解が深まりつつある。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>より安全な林道通行を確保するため、適切な維持管理の実施と案内標識や警戒標識等の看板の設置を図る必要がある。</p>

評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性 効率的な森林施業や木材生産等の実施のため、安全かつ円滑な通行を確保する整備が求められている林道であり、必要性が認められる。</li> <li>効率性 費用対効果分析の結果、費用以上の効果が得られており、効率性が認められる。</li> <li>有効性 森林整備の推進状況等からみて、有効性が認められる。</li> </ul>
------	--

# 完了後の評価個表

整理番号	森3-11
------	-------

事業名	林道舗装事業	都道府県	千葉県
地区名	ふちがさわおくごめ 澁ヶ沢奥米線	事業実施主体	千葉県
関係市町村	君津市	管理主体	千葉県
事業実施期間	S63 ~ H11 (12年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 本路線の概要 澁ヶ沢奥米線は、君津市奥米地区の国道410号線から三島湖畔沿いの市道正木奥米線を経由し、同湖畔最奥部を起点とし、尾根沿いを走り同市豊英地区の国道410号線へ通り抜ける路線で、昭和50年に開設が完成した延長5,975m、車道幅員4.0mの林道である。利用区域内森林面積275haの40%を占める人工林の除伐や間伐等の森林施業、林道沿いに整備されている「県立清和県民の森」の利用者や同地区住民の生活道として利用されている。</p> <p>② 本林道を整備する目的・意義 本林道は、砂利道のうえ急勾配区間が大半を占め、路面浸食を受けやすく、この補修に毎年多額の経費を要していた。 また、林産物を運搬するトラックの通行に支障を来すとともに、近年、県内外からの「県民の森」利用者や地域住民等による自動車の通行量が増加傾向にあり、より安全で円滑な通行を確保する必要があった。 このため、既設舗装部分を除き舗装を実施し、安全で円滑な林道通行の確保を図ったものである。</p> <p>(事業内容) 施工延長5,941m、車道幅員 4.0m、利用区域内森林面積 275ha</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>総便益 (B) 380,144千円 (総便益の内訳：一般交通便益169,004千円、災害等軽減確保便益124,926千円、維持管理費縮減便益86,214千円)</p> <p>総費用 (C) 225,571千円 分析結果 1.69</p>
② 事業効果の発現状況	<p>① 雨水等による路面浸食が無くなり、路面整備に係る維持管理費は整備前が年50～80万円、必要であったのに対し、近年は、通常の路面管理費は、必要なくなった。</p> <p>② 路面が平滑となり走行性が向上したことにより、「県民の森」利用者を主として地域住民等の利用が増加している。</p>
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>本林道は、千葉県が定めた林道管理規定に基づき管理されている。千葉県は、年2回の草刈や側溝掃除等を実施しており、維持管理状況はおおむね良好である。</p>
④ 事業実施による環境の変化	<p>雨水等による路面の浸食が防止されたことから、沿線の林地への砂利等の流入がなくなり、自然環境の保全が図られている。</p>
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>林産物の運搬に係る安全性が向上し、林道の利便性や必要性についての理解が得られつつある。 走行性が向上し、現在は、「清和県民の森」利用や地域住民の生活道路としての利用が主体であり増加傾向にあるが、森林に対する理解も深まりつつある。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>山地への入山者等による利用が増加しており、より安全な林道通行を確保するための維持管理を図る必要がある。 また、心ない利用者によるゴミの投げ捨てや不法投棄が増加しつつあり、看板の設置等により林道通行のマナーの向上を図る必要がある。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性 効率的な森林施業や木材生産等の実施のため、安全かつ円滑な通行を確保する整備が求められている林道であり、必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性 費用対効果分析の結果、費用以上の効果が得られており、効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性 森林整備の推進状況等からみて、有効性が認められる。</li> </ul>

